



うみまる通信

JAPAN COAST GUARD

第十管区海上保安本部
マリナー安全推進室

平成25年5月2日発行、第96号

【特集】ライフジャケット

（事件事例）

4月某日、男性1人が乗船し、錨を入れて操業中の漁船に航行中の作業台船が衝突し、漁船が転覆する事故が発生しました。

乗っていた男性が海に放り出されましたが、ライフジャケットを着ていたため命に別状はなく、転覆した漁船の船底に這い上がって118番で救助を要請。地元漁船により無事救助されました。



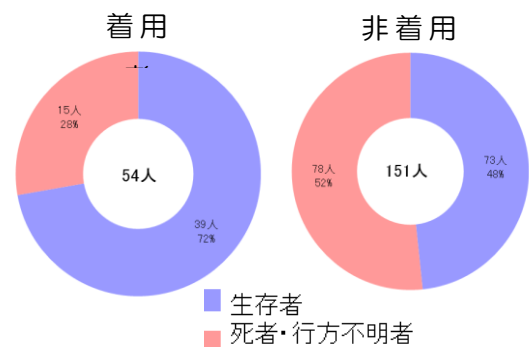
転覆した漁船

★ライフジャケットを着るだけで、こんなに生存率が違う！

平成24年、南九州3県（熊本、宮崎、鹿児島）で釣り中に海中転落事故に遭った人は23人で、このうち死亡・行方不明となった人は12人でした。

また、事故に遭った人の約7割がライフジャケットを着ていませんでした。

海上保安庁の発表では、ライフジャケットを着て釣り中に海中転落した人の生存率は72%、ライフジャケットを着ていなかった人の生存率は48%で、ライフジャケットを着ていた人は着ていなかった人よりも生存率が1.5倍高いことがわかりました。



★せっかくのライフジャケットも、脱げてしまっては効果なし！

（事件事例）

昨年1月、ライフジャケットを着て釣り中の男性（30歳）が海に転落する事故が発生しました。

付近に居て事故を目撃した人が直ちに消防に通報しましたが、男性は沖に流されて行方不明となり、海上保安庁や警察、消防などの懸命の捜索にも関わらず、翌日、ライフジャケットが脱げた状態で、遺体で発見されました。

ライフジャケットが海の中で脱げてしまっては意味がありません。もしライフジャケットが脱げなければ命を落とさずに済んだと思われる事故も度々発生しています。

せっかくのライフジャケット、正しく着用してしっかり自分の命を守りましょう！

また、身体の小さな人や子供が身体に合わないライフジャケットを着た場合、正しい姿勢で浮くことができなかつたり、脱げやすくなつたりします。

必要に応じて子供用ライフジャケットを着るなど、できるだけ身体に合ったものを着るよう心がけてください。

★ライフジャケットは、身体に合ったものを！

身体の大きな方がライフジャケットを着る場合、十分な浮力が確保できないことがあります。ライフジャケットを購入するときは、ライフジャケットに身体に合った浮力があるかどうか確かめましょう。

【マリナー事故の発生状況】3月16日～4月15日

プレジャーボート4隻（3名）の事故が発生

内訳：機関故障による航行不能3隻及び係留中の火災1隻

「うみまる通信」や「マリレ用海洋速報」についてのご意見、ご要望等がございましたら、第十管区海上保安本部警備救難部救難課（マリナー安全推進室事務局）までご連絡ください。